
おかえり。

むく。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おかえり。

【Nコード】

N5576N

【作者名】

むく。

【あらすじ】

ノンフィクション気味な短編というかさ。

おかえり、って、ただそれがほしかったの。

夏に限ったの話だが、下校時の帰路は独特の雰囲気をしている。照りつける日差しは強く、やっぱり長袖にすべきだったと後悔した。実際は歩いて10分程度の距離がやけに長く感じられ、気温と体調が重なって微かに意識が朦朧とする。けれど苦痛ではなかった。暑さで頭がやられたのか、あまり汗も出なくなり、少しの風がおかしい程に気持ちよかった。この道が自宅まで永遠に続くのだとしても、無心で歩き続けるのは容易いことだった。

3時から4時になるまでの一時間は、地域が静まり返る時間帯だ。普段は容赦ないおばさんたちの世間話も、声を潜めるように交わされる。僅かな物音すら忍ばれて、まるで人間や家までが息を止めたように静寂を作る。のろのろと横を通り過ぎて行った自転車のペダルを漕ぐ音に聴き入ってしまった。

ふと、教室での出来事が鮮明に思い出された。好きになるうとした。甲高い笑い声も、型にはまった受け答えも、自分にはないテンションも。でも、そんな表面から垣間見える汚さや、残酷さを目の当たりにして、解ってはいたものの、それが異常に悲しかった。怖くて、好きになる余裕なんてなかった。自分のマニュアル通りに演じるのが精一杯で、周囲に染まろうと必

死だった。

自分と他はきつと世界が違うんだ、そう思った。私、別世界の人間なんだ。

急に地球上から孤立したような感覚に襲われた。

別世界なんて有り得ないことだとよくよく理解していた。

彼らと私の違いは幼さ。私さえ黙っていれば済むことで、それは実証済みだった。

ずっとそうしてきて、影響さえなかったものの、独りであるのはひどく孤独だった。

こんなことがあと4年、多ければ8年続くのか。嫌だな、と心から思った。

このまま、どこかへ走り出せたらいいのに。

何も気にせずに、どうしようもなく遠くまで飛んでいけたらいいのに。

それは何よりも不可能だった。

その証拠に、私の足は既に自宅の前まで到着していた。

ここは表面上のゴールで、強制的に足を止めなければならない罠だった。

何度逃げようとしたって必ず戻ってくる場所。

結局私はこの場所に固執しているのだ。無心でもひとりでに足が動くくらいに。

怖くて逃げ出せもしない自分が情けなくて、嫌いだイヤだと御託を並べて、

結局最終的に私にはここに帰ってくるしか道がないのだ。

昨日やったみたいに、明日やるみたいに鍵を入れて回す。

見慣れた室内に足を踏み入れて、リビングまでのろのろ歩く。

おかえりがない家は、心がずきんと軋むのと同時に大きな安心感が

あった。

何気なくソファの横にあるタオルケットを取ると、それに隠れて見えなかったゲージの中で愛犬が尻尾を振っていたので、すぐに抱き上げて抱き締めて泣いた。

ああ、私は必要とされたかったんだ、と自覚した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5576n/>

おかえり。

2010年10月9日00時02分発行